



大正の頃の「鷹の松」(現在の千秋矢留町) 赤れんが郷土館所蔵・写真絵葉書



現在の「鷹の松」

あきたノスタルジー

秋田の昔を、写真で振り返ります。

現在も千秋矢留町に残る「鷹の松」。

写真の頃からもう100年近くもなるのに、その変わらない姿がうれしくなります。

かつてこの場所は鷹匠町と呼ばれ、佐竹氏のタカ飼いが住んでいた町でした。

たくさんのタカがこの大きな松の枝に止まっていたことから「鷹の松」と名付けられました。

曲がりくねった幹、唐傘を広げたような枝葉の黒松。

今は道の真ん中にありますが、もともとは旭川沿いにあった土手の名残です。

変わらない木の姿とは裏腹に、町並みの変化には驚かされるものがありますね。

9月9日(土)から赤れんが郷土館で開かれる「くらし発見!秋田のむかし」。

この企画展で昔懐かしい物、今では想像もつかない物、ぜひ、見て、触れてみてはいかがでしょうか。

赤れんが郷土館企画展

くらし発見!秋田のむかし

9月9日(土)▶11月12日(日)

午前9時30分~午後4時30分(期間中は無休)

赤れんが郷土館(2階企画展示室)

観覧料:大人200円 中学生以下無料

昔の居間や台所にあっただいごの道具、学校で使った道具などを展示します。懐かしいなあ。昔を知ってる人も知らない人も、楽しい発見がいっぱいです。ぜひ、親子でおいでください。

問い合わせ 赤れんが郷土館 ☎(864)6851



水切ざる



めしびつ



わらじ



ランプ



釜